2019年9月1日　アクセス　（1976年11月10日第三種郵便物認可）　第512号

地方小出版 情報誌 アクセス

毎月1回　1日発行
購読料　定価150円
（本体139円）
年間1,500円（税込み）
振替　00120-0-19017

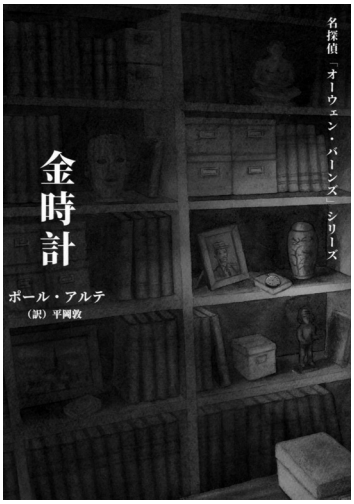
発行所　㈱地方・小出版流通センター
編集　アクセス編集委員会
〒162-0836　東京都新宿区南町20
TEL.03-3260-0355　FAX.03-3235-6182

面白い海外ミステリをお届けする

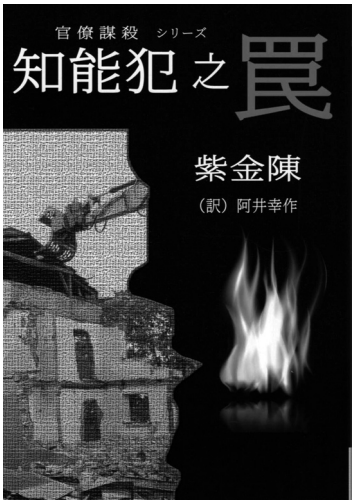
本当に面白い作品を、日本の読者の皆様に「実際にお読みいただける形で」お届けしたい気持ちを捨てられず、私たちは起業を決意した。

文・行舟文化（ぎょうしゅうぶんか）　張舟

二十年以上愛している推理小説によって縁を結んだ夫婦二人、「張舟」という共同筆名で長年創作・翻訳活動をおこなっています。中国・上海出身で、現在は福岡に住んでいます。「行舟文化」の創立者ですが、ビジネスマンというより、ミステリ作家・評論家・翻訳者の皆様の友達であり、読者の皆様の同志です。



【金時計】ポール・アルテ著／発行：行舟文化／定価：本体1600円＋税／ISBN978-4-909735-01-0



【知能犯之罠】紫金陳著／発行：行舟文化／定価：本体1850円＋税／ISBN978-4-909735-02-7

私たち夫婦はここ十数年、ミステリの翻訳・評論・研究といった活動を通じて、日中をまたいで多くの作家や編集者と懇意にしている。そのつながりを活かして、優れていると思う作品を編集者に紹介し、翻訳出版を実現させようと動いたことが何度かあった。特に近年は、日本のミステリ評論・研究書の中国での翻訳出版に努めている。二〇一四年、中国ミステリ研究家・阿井幸作氏のご紹介で、ワセダミステリクラブの中国ミステリ愛好家たち（のちに彼らは「風狂奇談倶楽部」という同人サークルを結成した）と知り合い、日本にも中国ミステリに注目してくれる人がいるのだと分かった。

その後、若手ミステリ作家の短編小説を訳し、中国のミステリ雑誌に紹介する活動をしながら、阿井幸作氏が「翻訳ミステリー大賞シンジケート」で執筆するコラム「中国ミステリの煮込み」や、風狂奇談倶楽部の同人誌『現代華文ミステリガイド』シリーズへの寄稿を通じて、中国大陸のミステリ作品を紹介してきた。そのなかの一篇「現代中国〈未邦訳〉傑作ミステリガイド」は、第16回「本格ミステリ大賞」に、予選候補作として推薦いただいた。

しかし、そうした場でいくら紹介したとしても、作品自体を読んでもらわなければ、その魅力を正しく理解してもらえるはずがない。紹介のみにとどまらず、本当に面白い作品を、日本の読者の皆様に「実際にお読みいただける形で」お届けしたい気持ちは募る一方だった。その思いを捨てられず、私たちは起業を決意した。

会社設立直後の二〇一七年六月、偶然、友人からフランスのミステリ作家ポール・アルテ氏の作品の邦訳が、八年前から途絶えてしまっていることを教えられた。

アルテ作品の続刊を求める声は、作家や評論家を含む多くのミステリファンから上がっているという。そもそも私たち自身、アルテ氏の大ファンだった。

「それならうちから出しましょう」とその場で決めた。

二〇一八年の夏、ほぼ一年の準備を経て「行舟文化」初の出版物として、そして「名探偵オーウェン・バーンズ」シリーズの邦訳第一弾として、『あやかしの裏通り』を上梓した。本書は当年度の『本格ミステリ・ベスト１０』第二位、『このミステリーがすごい！』第六位、「週刊文春ミステリーベスト１０」第八位にランクインするなど大好評を博した。

刊行にあたっては、ミステリ作家の芦辺拓氏、訳者の平岡敦氏、風狂奇談倶楽部の方々に多大な尽力をいただいた。彼らがいなければ、本書の刊行は不可能だと言っても過言ではない。最

初に、本書を店頭に置いてくださった丸善ジュンク堂書店とともに「行舟文化」の恩人である。

本シリーズには、アルテ氏直筆のイラストが表紙に使われている。他国語版にはない、日本の読者だけが楽しめる特典と言える。他社の書籍を見回しても、あまり例のない試みと思う。

また、限定品としてアルテ氏のイラストを刷ったポストカードと布製ブックカバーも製造した。いずれも価値あるコレクターズ・アイテムとして好評を得た。

二〇一九年四月、阿井幸作氏のご紹介で「西日本新聞」から取材を受けた。五月四日の朝刊に記事が掲載されたおかげで、小社は徐々に注目されるようになった。五月下旬、「鉄は熱いうちに打て」とばかりに、「名探偵オーウェン・バーンズ」シリーズ第二弾『金時計』を刊行した際に、風狂奇談倶楽部とジュンク堂書店大阪本店、そして親友の呉非さんから多大なご協力を得て、我々はポール・アルテ氏を日本に招待した。アルテ氏にとって、これが初来日だった。

東京では芦辺拓氏との対談会を、大阪では綾辻行人氏と有栖川有栖氏との鼎談会を開催した。いずれも参加者は百名を越え（その中には、著名なミステリ作家や評論家の方々の姿もあった）、「週刊文春」など複数のメディアが取材やインタビューに来てくださった。

『金時計』はアルテ氏の五年ぶりの長編であり、しかも日本先行販売となった。つまり、日本の読者はポール・アルテの最新作を、世界中のどの国より（アルテ氏の祖国・フランスよりも！）早く読めることになったのだ。それゆえに本書は大きな話題を集め、発売初週のジュンク堂書店池袋本店の文芸書週間ランキングTOP10に入り、TBS「王様のブランチ」でも報道された。

『金時計』と同日に、中国のベストセラーミステリ作家・紫金陳（ズージン・チェン）氏の『知能犯之罠』も刊行した。本書は「行舟文化」の初の中国ミステリでもある。六月十五日に、我々は訳者の阿井幸作氏を北京よりお招きし、大倉崇裕氏をゲストに迎え東京で『知能犯之罠』を巡るトークイベントを行った。

行舟文化・周燁（しゅう よう）社長

『知能犯の罠』は、紫金陳氏の「官僚謀殺」シリーズの第一作だ。実在の事件をモチーフに書かれたもので、中国では連載が始まると同時に、一気に絶大な人気を得た。同作に限らず、紫金陳作品の特長として、犯人と捜査陣の高レベルな頭脳戦が生み出す対決の魅力、登場する最先端の科学捜査の面白さ、全編にわたる仕掛けの構築力、そして読者を涙させるストーリーテリングが挙げられる。

本シリーズは社会派推理小説という側面も持っている。そもそも、犯罪のきっかけとなるのは、被害者である官僚たちの悪行であり、官界の問題点や汚職の実態が、作中に描きこまれる。「本格」と「社会派」を両立するこの傑作の存在をもっと多くの読者に知っていただくよう、小社では今後も宣伝活動を続けていく。

これからの活動として、まず来年の春頃に「名探偵オーウェン・バーンズ」シリーズ第三弾『犯罪七不思議』のほか、次の中国ミステリ二作を刊行することにした。

「大唐ミステリー」シリーズ第一弾『蘭亭序の謎』（唐隠（タン・イン）著／立原透耶訳）

「西遊八十一事件」シリーズ第一弾『大唐の奈落』（陳漸（チェン・ジェン）著／藤野真子・緒方賢一夫妻訳）

これらの作品はいずれも、「中国ならでは」の要素を豊富に描きこみながら、読みごたえのあるスリリングな物語で楽しませてくれる。作中に見られる古代の歴史・服飾・官制・文物・社会風習などにまつわる豊富な蘊蓄は、読者をいにしえの王朝ロマンの世界へいざなってくれるはずだ。

「大唐ミステリー」シリーズは四部構成（『蘭亭序の謎』『璇璣図の謎』『長恨歌の謎』『推背図の謎』）からなる、スケールの大きい宮廷ポリティカル・サスペンスだが、ミステリ要素も多分に盛り込まれている。則天武后や楊貴妃など、実在の中国史上の人物が次々と登場し、読者を歴史の大河へと導く。

一方、中国で長編が三作、刊行されている「西遊八十一事件」シリーズは、歴史・宗教・コンゲーム・政治謀略など、様々な要素が入り組む骨太なストーリーで、現代中国屈指の本格時代ミステリの傑作シリーズである。

「名探偵オーウェン・バーンズ」シリーズ、「官僚謀殺」シリーズとともに、この両シリーズも基本には年に一冊のペースで翻訳出版していく。また、今年と同様に、来年の新刊発売の際には、著者を招待した刊行記念イベントを行おうと考えている。唐隠氏も陳漸氏も学究肌な作家であり、歴史学に造詣が深く、ミステリー以外にも興味深い話をたくさん聞けるはずだ。どうぞお楽しみに！

終わりに

「行舟文化」は今後も本格ミステリを中心に、サスペンス・犯罪小説・SFミステリーといったジャンルの海外作品を紹介していきます。また、機会があれば、筆者が偏愛する中国独自のジャンル・武侠推理小説も紹介したいと思っています。

このたび、地方・小出版流通センター広報誌「アクセス」様のご厚意で拙文をご掲載いただきましたことを、心より感謝しております。誠にありがとうございました。

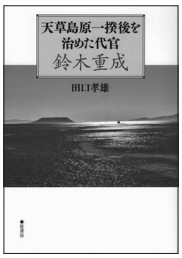
＊

（ちょう　しゅう・行舟文化）

新刊ダイジェスト

表示されている値段は本体価格となっております。ご購入には別途、消費税がかかります。

『天草島原一揆後を治めた代官　鈴木重成』●田口孝雄著



天草島原一揆は藩主の過酷な収奪に対する内戦であり、我が国最大の一揆であるが、天草四郎の名と共に過酷なキリシタン弾圧と、いわゆる「鎖国」の要因になったことでも知られる。鉄砲奉行として征討軍に加わった鈴木重成は、平定後、この地を治める初代代官になる。悲劇を身をもって体験した重成は、二度と繰り返さぬよう戦後復興に心を砕く。年貢負担の大幅軽減を幕府に掛け合い、一揆によって働き手の絶えた土地への移住政策、そして宗教間対立の克服である。重成の治政はおよそ12年間で、復興の実態が見えるまでにはさらに10年余を要した。平成15年に史料集が編集されたが、史料は少なく、評価、検証も十分ではないという。著者は重成を祀る鈴木神社の宮司である。史料を丹念に紐解き、三河武士としての出自、鈴木家の系譜、一揆の実相、天草代官としての腐心、時代思潮を明らかにする。重成の初めての伝記書であるが、戦後復興史としても大変に興味深い。

◆2200円・A5判・270頁・**弦書房**・福岡・201906刊・ISBN9784863291904

『農村の第四革命　－阿蘇南麓からの提案』●兼瀬哲治著

近代の農村は明治維新後の地租改正、戦後の農地解放、昭和45年から平成30年まで続いた減反政策と、三度の大変革を経験してきた。そして今は、消極的に受け身のままでいれば確実に消滅する第四の革命が既に進行しているという。著者は熊本県清和村（現山都町）に生まれ、村職員、村長として厳しい村の現状を見つめ、村に伝承する文楽や小水力発電など地域資源を生かした地域づくりに邁進してきた。第四の革命は農村存亡にかかわる危機である。しかし、そこから脱却して革命的に飛躍する好機ととらえることもできる。それには、希望と納得ができる野心的な方策が必要である。

著者は自身の経験から、棚田発電による電力の地産地消などの農村エネルギー革命、農産物加工品のデパ地下販売、郷土芸能の活用、修学旅行誘致などによる観光の多様産業創出革命を提起する。農村は大きな可能性を秘めている。農村の将来は土地の資源活用にあることを実感させられる。

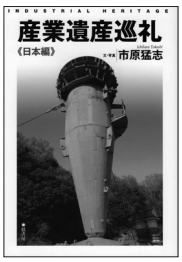
◆1000円・新書判・222頁・**熊本日日新聞社**・熊本・201904刊・ISBN9784877555887

『たぶん　知らない　ネコの森』●Ｚｉｎ著

公園のベンチに三日月の光がゆるゆると降り注ぐ夜、ネコの森の扉が運ばれて来る。夜にネコとフクロウが時々入れ替わることをたぶんだれも知らない。舞台はこんな風に“たぶん知らない”ことが多い不思議な森。ネコだけではなく、他の動物も森の仲間。オオカミカルテットは楽器を持っているのに実は吠えているだけ。ネコたちは福寿草の花園で本物のモグラ叩きをしている。葉のないヒマワリはシャワーになる。コスモス畑は秘密基地となり、ネコはもちろん、キツネもくつろいで過ごしている。ワレモコウはその形から「フクロウ時計」で、出発の時を知らせてくれる。12月26日、役目を終えたサンタたちが酔い潰れる。季節の移ろいを感じさせてくれる知らない出来事がいっぱいだけど、最後に明かされる、たぶんみんなが知っていることとは？　子どもの頃からたくさんのネコに囲まれて育った著者がネコを中心に数々の動物たちをほのぼのとしたタッチで描いた心がホッとする絵本。

◆1000円・B5判・22頁・**オフィスエム**・長野・201906刊・ISBN9784866230306

『産業遺産巡礼　日本編』●市原猛志著

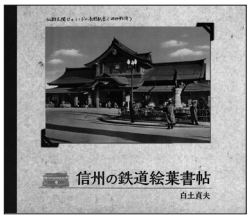


この本に掲載された「産業遺産」212ヵ所を産業別にみると、第一次産業（農業、酪農業）は3ヵ所しかない。第二次産業84ヵ所を製造業、建設業、鉱業、軍関係に分けると、すべて10ヵ所以上となっている。第三次産業125ヵ所のうち、公的施設、商業、運輸関係、学校、宗教関係が10ヵ所以上となっており、医院、刑務所、灯台なども含まれる。

地方別にみると、九州70ヵ所、関西33ヵ所が多く、北陸と四国はそれぞれ2ヵ所しかない。県別では福岡、鹿児島など6県が10ヵ所以上、青森、岐阜など9県がゼロだった。このような傾向をもつ産業遺産が、著者の「巡礼」順に掲載されており、そのランダムさは読者を惑わすが、同時に「何に出会うかわからない」、旅に似た感覚を味わうことができる。「これは」という産業遺産を見つけることができたら、儲けものと言える。全体を通して読むと、著者の建物・歴史的建造物への強いこだわりが感じられる。

◆2200円・A5判・316頁・**弦書房**・福岡・201907刊・ISBN9784863291928

『信州の鉄道絵葉書帖』●白土貞夫著



著者が収集した長野県の鉄道絵葉書を一冊にまとめた本書では、主に戦前の鉄道風景を眺めることが出来ます。日本最高所を走る小海線や善光寺平を一望できる篠ノ井線姨捨駅からの眺望など今と変わらぬ鉄道名所がある一方で、アプト式電気機関車が引く信越本線の碓氷峠や寺院風建築の三代目長野駅舎といった、今では失われた景色も多くあります。駅周辺の賑わいや、開通式の群衆からは鉄道が多くの期待を集めていた時代の空気を感じます。取り上げられるのはＪＲやしなの鉄道など現役の路線にとどまりません。善光寺白馬電鉄や布引電気鉄道など、戦前のうちに廃止されてしまった鉄道の絵葉書は、それだけで現役当時の様子を伝える数少ない貴重な資料です。そしてただ懐かしいだけでなく、解説では著者の該博な鉄道知識によって、写っている様々な車両の形式などまで明らかにされていきます。特に中小私鉄を流転する車両の履歴は鉄道マニアにも読みごたえ十分です。

◆ 1500 円・185mm × 212mm 判・219 頁・**しなのき書房**・長野・201907 刊・ISBN9784903002590

◇◇◇

この「新刊ダイジェスト」のバックナンバーを弊社Ｗｅｂサイトにたくさん掲載してます。機会がございましたらぜひご覧ください。アドレスは以下の通りです。右のＱＲコードもご利用ください。　http://neil.chips.jp/chihosho/digest/index.html

地方小出版流通センター　ジャンル別新刊案内

2019年7月1日～31日
流通センター着

※各ジャンル内での出版社名は所在地の北から南の順に並んでいます。

表示されている値段は本体価格となっております。ご購入には別途、消費税がかかります。

【雑誌】

◆あおもり草子　Ｎｏ．２５９　ーねぶた祭り　２０１９　杉山　陸子編　Ａ４　64頁　４６３円　企画集団ぷりずむ　［青森］　978-4-503-21813-1　19/08

◆GREEN　REPORT　４７５　２０１９年7月号　廣瀬　仁編　Ａ４　192頁　２５９３円　地域環境ネット　［埼玉］　978-4-909864-07-9　19/07

◆響き合う街で　Ｎｏ．８９　２０１９年７月号　やどかり出版編　Ｂ５　66頁　１２００円　やどかり出版　［埼玉］　978-4-503-21810-0　19/07

◆子どもと昔話　Ｎｏ．８０　小澤　俊夫編　Ａ５　79頁　７９０円　小澤昔ばなし研究所　［神奈川］　978-4-902875-93-5　19/07

◆かまくら春秋　Ｎｏ．５９０　２０１９年６月号　伊藤　玄二郎編　Ｂ６　89頁　２９６円　かまくら春秋社　［神奈川］　978-4-7740-0779-3　19/06

◆星座　歌とことば　Ｎｏ．９０　伊藤　玄二郎編　Ａ５　147頁　１０００円　かまくら春秋社　［神奈川］　978-4-7740-0787-8　19/07

◆道　Ｎｏ．２０１　木村　郁子編　Ａ４　74頁　１１４３円　どう出版　［神奈川］　978-4-910001-01-2　19/07

◆くらしと教育をつなぐ　We　Ｎｏ．２２１　２０１９年８／９月号　中村　泰子編　Ａ５　80頁　８３０円　フェミックス　［神奈川］　978-4-903579-92-4　19/08

◆児童文芸　２０１９年８－９月号　高橋　うらら編　Ａ５　112頁　８００円　あるまじろ書房　［東京］　978-4-904387-21-4　19/08

◆武田氏研究　第６０号　武田氏研究会編　Ａ５　58頁　１０００円　岩田書院　［東京］　978-4-503-21808-7　19/07

◆アーカイブズ学研究　Ｎｏ．３０　日本アーカイブズ学会編　Ａ４　95頁　２５００円　岩田書院　［東京］　978-4-503-21809-4　19/06

◆仏事　Ｎｏ．２２７　２０１９年８月号　奥村　昇編　Ａ４　92頁　１５００円　鎌倉新書　［東京］　978-4-503-21814-8　19/08

◆月刊住職　Ｎｏ．２４８　２０１９年７月号　矢澤　澄道編　Ａ５　205頁　１３００円　興山舎　［東京］　978-4-908027-68-0　19/07

◆月刊住職　Ｎｏ．２４９　２０１９年８月号　矢澤　澄道編　Ａ５　197頁　１３００円　興山舎　［東京］　978-4-908027-69-7　19/08

◆子どもの文化　Ｎｏ．５７９　２０１９年７＋８月号　片岡　輝編　Ａ５　175頁　１４５５円　子どもの文化研究所　［東京］　978-4-503-21812-4　19/08

◆子どもと本　第１５８号　子ども文庫の会編　Ａ５　44頁　５９０円　子ども文庫の会　［東京］　978-4-906075-63-8　19/07

◆茶道の研究　Ｎｏ．７６４　２０１９年７月号　三徳庵編　Ａ５　80頁　５００円　三徳庵　［東京］　978-4-503-21783-7　19/07

◆セセデ　ｖｏｌ．７０１　２０１９年８月号　朝鮮青年社編　Ａ４　48頁　４９０円　朝鮮青年社　［東京］　978-4-503-21793-6　19/08

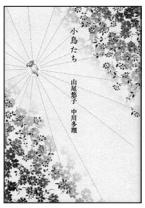
◆東京かわら版　Ｎｏ．５５２　２０１９年８月号　佐藤　友美編

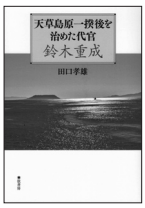
売行良好書

期間：2019年7月15日～8月14日
※価格は本体価格表示です。別途消費税がかかります。

［出荷センター扱い］

(1)『お砂糖とスパイスと爆発的な何か』1500円・書肆侃侃房　(2)『たぷの里』1200円・ナナロク社　(3)『小鳥たち』2200円・ステュディオパラボリカ　(4)『こんにちは、昔話です』1000円・小澤昔ばなし研究所　(5)『天草島原一揆後を治めた代官　鈴木重成』2200円・弦書房　(6)『よみきかせのきほん』750円・東京子ども図書館　(7)『いごってなあに？』1400円・ぶんしん出版　(8)『子どものすきな神さま』1300円・サンライズ出版　(9)『中学生のためのスイーツの教科書』900円・吉備人出版　(10)『小倉藩の逆襲』1600円・花乱社　(11)『ゲンパッチー』1500円・石風社　(12)『おきなわ懐かし写真館　復帰前へようこそ』1200円・琉球新報社　(13)『食は薬なり』1200円・金壽堂出版





［三省堂書店神保町本店　センター扱い図書］

(1)『お砂糖とスパイスと爆発的な何か』1500円・書肆侃侃房　(2)『小鳥たち』2200円・ステュディオ・パラボリカ　(3)『東京かわら版　８月号』463円・東京かわら版　(4)『大統領の密使／大統領の晩餐』1800円・フリースタイル　(5)『たぷの里』1200円・ナナロク社　(6)『本の雑誌　４３５号』667円・本の雑誌社　(7)『終らない物語』2200円・フリースタイル　(8)『ねむらない樹　ｖｏｌ．３』1300円・書肆侃侃房　(9)『書評稼業四十年』1700円・本の雑誌社　(10)『金時計』1600円・行舟文化

［ジュンク堂書店池袋店　地方出版社の本―センター扱い図書］

(1)『お砂糖とスパイスと爆発的な何か』1500円・書肆侃侃房　(2)『地名は語る』900円・埼玉新聞社　(3)『天空の聖域ラルンガル』2200円・中国書店（集広舎）　(4)『浦和競馬場７０周年記念誌』700円・埼玉新聞社　(5)『日本統治下の朝鮮シネマ群像』2200円・弦書房　(6)『産業遺産巡礼　日本編』2200円・弦書房　(7)『帰ってきたビルマのゼロ・ファイター』1852円・中国書店（集広舎）　(8)『越前中世城郭図面集1』2500円・桂書房　(9)『耳の聞こえない人、オモロイやん！と思わず言っちゃう本』1500円・星湖舎　(10)『出雲王国とヤマト政権』2250円・大元出版　(11)『検証温暖化』2500円・不知火書房　(12)『日本女子初の五輪メダリスト　伝説の人　人見絹枝の世界』900円・日本文教出版

以下ホームページ等でも各種情報提供を行なっております。ご利用ください。
ＵＲＬ：http://neil.chips.jp/chihosho/　　ツイッター公式アカウント：@local_small

トピックス ―― ★★★

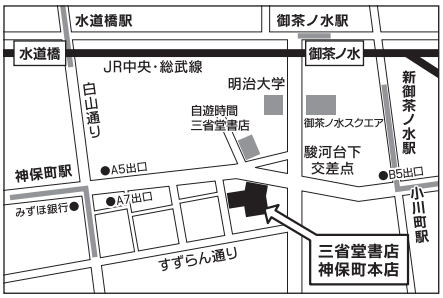
▼明治大学リバティアカデミーと「本の街神保町を元気にする会」が、今年も公開講座を開講します。今年のテーマは**【ものがたり神保町の150年】**。「世界に誇る本の街・神保町はどのようにして成立し、どのような道のりを歩んできたのでしょうか。ものがたりは、町名の起こりとされる旗本神保家があった江戸市中の様子から始まります。やがて維新、帝国大学、学習院、専修、法政、明治など数多の大学の創立の地となり学校街に変貌。そこで呱々の声を上げた有斐閣、三省堂、冨山房、東京堂などの創業者の思いに耳を傾けます。馬車鉄道、市電が走り、東明館や南明館などの商業施設、芝居小屋三崎三座が進出し夜を日に継ぐ賑わいの街を鴎外、一葉、漱石、藤村、谷崎、白秋、賢治が歩きます。戦前から古書店を営む一誠堂書店、悠久堂書店、誠心堂書店店主をはじめ、この街で半生を過ごしこの街を愛して止まない講師陣が、知られざるエピソードとエポックを掘り起こし、本の街のものがたりを紡ぎます」（明治大学リバティアカデミーサイトより）。講座内容は以下の通りです。

・10/5（土）【神保町はじめはじめのものがたり - 幕末から明治へ】
・10/19（土）【本の街 - 誕生のものがたり】
・11/02（土）【グラフ誌『風俗画報』を散策する - 江戸から明治へ収束する神保町 -】
・11/16（土）【神保町 - 文豪たちのものがたり】
・11/30（土）【古書店 - 昔語りの神保町】

詳細、受講お申込みは明治大学リバティサイトアカデミーサイトにて。
https://academy.meiji.jp/course/detail/4980/

地方・小出版物のデータになります。綴じて保存してください。

BOOKS SANSEIDO
三省堂書店　営業のごあんない

神保町本店 ４階
地方出版・小出版物フロア
営業時間　10：00 AM ～ 8：00 PM
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1
TEL. 03-3233-3312(代)
URL. http://www.books-sanseido.co.jp

本店4階売場では、地方・小出版流通センター扱いの新刊全点のほか、地域別に書籍を取り揃えております。また、地域ならではのタウン誌、趣味の雑誌も扱っております。